

「税務は手段にすぎない」  
と語る前島治基社長



経営コンサルティングファームとして活動している税理士法人「ノースブレイン」。

税理士でもある前島治基社長は「企業が赤字になるのは税理士の責任」と断言する。単なる代行業務から脱却し、付加価値提供型の会計事務所として実績を積んでいるからこそその発言だ。



弁護士、司法書士とアライアンスを組む

相談ブースを複数完備



「ノースブレイン」

札幌市中央区南1条西4丁目札幌大手町ビル8階  
011-522-0595 <http://www.sapporo-tax-accountant.com/>

## IT化とファイナンスコンサルで顧客の永続的発展を目指す

を導き出し、事前に対策を講じることができると。

銀行マンから税理士に転身した前島社長は「資金

調達で最も有効な対策は、内部留保を増やすこと。節税が悪いとはいいませんが、

提案している。

現在から1年以内の短期的未来と5〜10年先の中長期的未来をシミュレーションするのが「未来の見える化」。短期的未来は、決算書などの過去の財務データをもとに損益予算を計画し、借り入れに対する返済計画や設備投資計画、売掛金の回収サイクルなどを加味した資金繰り計画を提供。中長期的未来については、経営者との対話の中から漠然としている将来像を数値化する。

同時に浮き彫りになるのが現在の弱点と将来のリスクだ。それらをあらゆるデータから徹底分析し「先回り化」する。例えば、資金ショートが生じる時期

を導き出し、事前に対策を講じることができると。

「ITスキルと財務ノウハウを融合させた独自のメソッドで、顧客に貢献していく」と前島社長は力を込める。

る「税理士業務」の大半は近い将来AIがおこなうことになるでしょう。当社のスタンスはクライアントの永続的発展。税務はそのための手段にすぎない」と先をにらむ。

同社では、集計業務で得た財務データをもとに「未来の見える化」と「先回り化」を顧客に